

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470700515
法人名	医療法人 社団 嘉祥苑
事業所名	グループホーム 嘉祥苑
所在地 (電話番号)	松阪市鎌田町233-8 (電話) 0598-51-7331

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 2 月 17 日(火)

## 【情報提供票より】 (H21年1月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算	15人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	18,900 円
敷 金	有( 円) <b>無</b>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <b>無</b>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 1 月 8 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	堀江クリニック 済生会松阪総合病院 松阪市民病院 松阪中央総合病院
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人「嘉祥苑」を母体とした2ユニットの一階、二階に分かれたグループホームで、同一敷地内に内科、外科等のクリニック及び老人保健施設があり、国道42号線に面した街の中心に位置している。介護福祉士やケアマネージャーの有資格者も多く、幅広い年齢層の職員に支えられ安心して暮らせる環境が整っている。利用者のフェースシートに基づくケアプランにより日常の支援がされ、利用者毎のチェック表により月一回のモニタリングを基に定期的なケアプランの見直しを実施されており充実した支援がされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市との連携については、昨年より市内グループホーム協議会が発足し、市職員や他のグループホームとの交流が図られている。又、ケアプランの見直しについては従来の業務日誌等による月一回のケア会議に加え、新しく利用者毎のモニタリング表により具体的に見直す仕組みが出来ている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>昨年比自己評価を行う職員を増やし、職員の考え方や日常支援について見直す機会として職員と管理者との意識レベル合わせに活用している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会の参加は無いが、会議は二ヶ月毎に定期的に日程を設定して開催されており、事業所の状況説明に基づき意見交換がされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「グループホームだより」がイベントを中心に広報されており、家族の来所時には利用者毎の主担当の職員や管理者が家族との意見交換を実施している。所内には苦情やご意見箱が置かれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の行事が無い為、グループホームを含む「嘉祥苑」としてのイベントに地域の高齢者を中心に招待して交流に努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開始当時から医療法人「嘉祥苑」の一部として、地域に存在感のあるグループホームを目指し「笑顔、敬愛、感謝」の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の支援の中では、利用者の過去の体験話に耳を傾けたり、笑顔を絶やさないうかがいで共に支え合い生活して行く事の大切さを共有している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事は殆ど無いが、小学校からの招待のイベントに出かけたり、「嘉祥苑」の夏祭りなどのイベントに近隣の高齢者を招待したりして交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施については、一階、二階それぞれ職員が項目毎に自分で用紙に記入し、管理者を中心に意識合わせをしながら職員の新しい発見や気づきで、利用者の介護レベルの変化に応じた日常の支援に生かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会の参加者は無いが、二ヶ月に一度の割合で定期的開催されており、事業所の状況報告や意見交換がおこなわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年からのグループホーム協議会が発足し、市の高齢福祉課の職員との意見交換の機会が増えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「グループホームだより」が年三回発行され、イベントや日常の様子が知らされており、家族の来所時には主担当の職員と管理者が利用者毎の暮らしぶりを伝え、家族の意見を聞いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内には「ご意見箱」が設置されているが、殆ど投入が無いのが実態であり、家族の来所時に管理者を中心に意見や相談に応じ、その内容をケア会議に反映している。尚、重要事項説明書には外部を含め、相談窓口が明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一階、二階ユニットを合わせた職員配置となっており、二名の利用者毎に主担当の職員を決め、きめ細かい支援が出来る体制となっている。職員の異動は欠員が生じた場合は、敷地内の老人保健施設等の職員との移動は有るが、基本的には異動を少なくする配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「嘉祥苑」としての内部研修が毎月開催されており、三重県グループホーム協議会開催の研修にも積極的に参加している。グループホームの職員としても、介護福祉士やケアマネ資格研修にも参加者が多く、本年度は介護福祉士三名、ケアマネ二名が新しく誕生している。尚、有資格者には手当てが支給されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会での交流以外にも、グループホーム相互の訪問が行われており、サービスの向上等の話し合いをすすめている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	問い合わせや利用の希望があった場合は先ず見学して貰い、必要に応じて利用者宅を訪問して相談に対応している。特に希望があれば一日体験を実施する場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の現実、現状を受け入れる姿勢が基本である事を原点として、職員と利用者とのコミュニケーションが難しい人も又、可能な人も共に支え合う関係を大切に心がけ支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェースシートに基づき、利用者毎の生活歴や得意な事を中心に、趣味を生かした楽しみや過ごし方を職員で話し合い日常の支援に生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	フェースシートの他、一ヶ月位経過した時点で職員と管理者で話し合い介護計画書を作成して家族に説明しまとめている。ケアプランは利用者、家族の意向に基づく総合的な方針と援助目標(長期、短期)援助内容が明記され、支援内容毎のケアチェック表により管理出来る仕組みとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援内容毎にモニタリング表に基づき日々管理され、月一回のケア一会議で検討されており、四ヶ月毎に利用者の変化に応じ見直しされ、家族との話し合いを経て新たな計画書が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地内に内科、外科等のクリニックは有るが、総合病院での受診や美容院への送迎等出来る範囲での支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期健診や随時の健康診断は、同一敷地内のクリニックで実施しているが、眼科、歯科については希望により他の医院で受診出来る様に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に於いて重度化した場合や終末期の対応については「嘉祥苑」の老人保健施設か療養型医療施設での支援をする旨の話がされており、職員も方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄など個人の特性に基づく対応が職員間で話し合われており、言葉かけについても利用者の誇りを損ねる事の無い様に心がけ支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一階のユニットはやや介護レベルが高く、食堂で過ごす時間が多く車椅子で過ごす人もあり、二階のユニットとの違いは有るが一人ひとりのペースを大切にして支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時のサポートを要する人が2～3名あり、職員と一緒に食事が出来ない人もあるが、交替で同じテーブルで話しながら楽しんでいる。介護レベルが高くなり、後片付けや準備の出来る人は少なくなっている。三食とも業者からの配達であり、温めや盛り付け等の配膳となっているが、月一度は材料を買って来て皆で作って楽しみの一つとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後は行事もあり、基本的には午前の入浴となっており、週2～3回の支援をしている。車椅子の利用者については、シャワー対応となっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの好みの楽しみがあり、ぬり絵やトランプ、習字など職員も一緒に楽しみながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーや喫茶を主体に外出の支援をしており、車で少し離れた公園へ行き季節感の味わえる支援にも努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの出入り口はオープンとなっているが、各ユニット毎の出入り口については暗証番号による開閉となっており、利用者が自由に出入り出来ない様になっている。	○	国道42号線に面した位置でもあり、当初からユニットの出入り口は施錠する仕組みが継続しており、運営者、管理者を含め鍵を掛けない取り組みの意識が少ないが、利用者の精神的な立場について、今一度改善の方法を検討される事が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	敷地内での避難訓練は「嘉祥苑」全体で実施がされている。地震を想定した市の避難所への避難訓練は行われていない。	○	地震を想定した市の指定避難所への避難訓練について、地域の協力を働きかけ、避難所への通路確認を含め実施されることを期待したい。



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーの確保については、配達業者に任せており、一人ひとりの摂取量の確認は水分量摂取と共に管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間はゆったりとした構造となっており、明るく居心地よく過ごせる空間となっている。職員と共に作成した手作りのカレンダーや季節感を感じる絵なども飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台が設置され、それぞれが思い思いの写真や絵が飾られ、テレビや本棚など好みに応じた物が置かれ、居心地よく過ごしている様子がうかがえる。		